声に出して読む万葉集　第四十九回

巻八　其の三

夏雑歌

一四六五

［題詞］藤原夫人歌一首［明日香清御原宮御宇天皇之夫人也　字曰大原大刀自　即新田部皇子之母也］

［原文］霍公鳥　痛莫鳴　汝音乎　五月玉尓　相貫左右二

［訓読］霍公鳥（ほととぎす）いたくな鳴きそ汝（な）が声を五月（さつき）の玉にあへ貫くまでに

一四六六

［題詞］志貴皇子（天智天皇第七皇子）御歌一首

［原文］神名火乃　磐瀬之社之　霍公鳥　毛無乃岳尓　何時来将鳴

［訓読］神奈備（かむなび）の石瀬（いはせ）の社（もり）の霍公鳥（ほととぎす）毛無（けなし）の岡にいつか来鳴（き）かむ

一四六七

［題詞］弓削皇子（天武天皇の第八皇子）御歌一首

［原文］霍公鳥　無流國尓毛　去而師香　其鳴音手　間者辛苦母

［訓読］霍公鳥なかる国にも行きてしかその鳴く声を聞けば苦しも

一四六八

［題詞］小治田（奈良県高市郡明日香村）の廣瀬王の霍公鳥の歌一首

［原文］霍公鳥　音聞小野乃　秋風尓　芽開礼也　聲之乏寸

［訓読］霍公鳥声聞く小野の秋風に萩咲きぬれや声の乏（とも）しき

一四六九

［題詞］沙弥の霍公鳥の歌一首

［原文］　足引之　山霍公鳥　汝鳴者　家有妹　常所思

［訓読］　あしひきの山霍公鳥汝(な)が鳴けば家なる妹(いも)し常に偲(しの)はゆ

一四七〇

［題詞］　刀理宣令(とりのせんりやう)の歌一首

［原文］　物部乃　石瀬之社乃　霍公鳥　今毛鳴奴香　山之常影尓

［訓読］　もののふの石瀬(いはせ)の社(もり)の霍公鳥今も鳴かぬか山の常蔭(とかげ)に

一四七一

［題詞］　山部宿祢赤人の歌一首

［原文］　戀之家婆　形見尓将為跡　吾屋戸尓　殖之藤浪　今開尓家里

［訓読］　恋しけば形見にせむと我がやどに植ゑし藤波今咲きにけり

一四七二

［題詞］　式部大輔石上堅魚朝臣(しきぶのだいふいそのかみのかつを)の歌一首

［原文］　霍公鳥　来鳴令響　宇乃花能　共也来之登　問麻思物乎

［訓読］　霍公鳥来鳴き響(とよ)もす卯(う)の花の伴(とも)にや来(こ)しと問はましものを

［左注］　右は、神龜五年（七二八）戊辰(つちえのえたつ)に大宰帥大伴卿の妻大伴郎女、病(やまひ)に遇ひて長逝す。その時に、勅使式部大輔石上朝臣堅魚を大宰府に遣はして、喪を弔ひ并せて物を賜ふ。其の事既に畢(おは)りて、驛使(はゆまづかひ)と府の諸卿大夫等と、共に記夷(き)の城(き)に登りて望遊する日に、乃ち此の歌を作る。

一四七三

［題詞］　大宰帥大伴卿が和ふる歌一首

［原文］　橘之　花散里乃　霍公鳥　片戀為乍　鳴日四曽多寸

［訓読］　橘の花散る里の霍公鳥片恋しつつ鳴く日しぞ多き

一四七四

［題詞］　大伴坂上郎女、筑紫の大城山（おほきのやま）を思（しの）へる歌一首

［原文］　今毛可聞　大城乃山尓　霍公鳥　鳴令響良武　吾無礼杼毛

［訓読］　今もかも大城の山に霍公鳥鳴き響（とよ）むらむ我れなけれども

一四七五

［題詞］　大伴坂上郎女の霍公鳥の歌一首

［原文］　何奇毛　幾許戀流　霍公鳥　鳴音聞者　戀許曽益礼

［訓読］　何しかもここだく恋ふる霍公鳥鳴く声聞けば恋こそまされ

一四七六

［題詞］　小治田朝臣廣耳（おはりだのあそみひろみみ）の歌一首

［原文］　獨居而　物念夕尓　霍公鳥　従此間鳴渡　心四有良思

［訓読］　ひとり居て物思ふ宵（よひ）に霍公鳥こゆ鳴き渡る心しあるらし

一四七七

［題詞］　大伴家持の霍公鳥の歌一首

［原文］　宇能花毛　未開者　霍公鳥　佐保乃山邊　来鳴令響

［訓読］　卯の花もいまだ咲かねば霍公鳥佐保の山辺に来（き）鳴き響（とよ）もす

一四七八

［題詞］　大伴家持の橘の歌一首

［原文］　吾屋前之　花橘乃　何時毛　珠貫倍久　其實成奈武

［訓読］　我が宿（やど）の花　橘（はなたちばな）　のいつしかも玉に貫（ぬ）くべくその実（み）なりなむ

一四七九

［題詞］　大伴家持の晩蝉（ひぐらし）の歌一首

［原文］　隠耳　居者欝悒　奈具左武登　出立聞者　来鳴日晩

［訓読］　隠（こも）りのみ居（を）ればいぶせみ慰むと出で立ち聞けば来鳴（き）くひぐらし

一四八〇

［題詞］　大伴書持（ふみもち）（家持の弟）の歌二首

［原文］　我屋戸尓　月押照有　霍公鳥　心有今夜　来鳴令響

［訓読］　我が宿（やど）に月おし照れり霍公鳥心あれ今夜（こよひ）来鳴き響（とよ）もせ

一四八一

［原文］　我屋戸前乃　花橘尓　霍公鳥　今社鳴米　友尓相流時

［訓読］　我が宿の花橘に霍公鳥今こそ鳴かめ友に逢へる時

一四八二

［題詞］　大伴清縄（きよつな）（伝未詳）の歌一首

［原文］　皆人之　待師宇能花　雖落　奈久霍公鳥　吾将忘哉

［訓読］　皆人の待ちし卯の花散りぬとも鳴く霍公鳥我れ忘れめや

一四八三

［題詞］　奄君諸立（あむのきみもろたち）（伝未詳）の歌一首

［原文］　吾背子之　屋戸乃橘　花乎吉美　鳴霍公鳥　見曽吾来之

［訓読］　我が背子が宿の橘花をよみ鳴く霍公鳥見にぞ我が来し

一四八四

［題詞］　大伴坂上郎女の歌一首

［原文］　霍公鳥　痛莫鳴　獨居而　寐乃不所宿　聞者苦毛

［訓読］　霍公鳥いたくな鳴きそひとり居て寐（い）の寝（ね）らえぬに聞けば苦しも

一四八五

［題詞］　大伴家持、唐棣（はねず）の花歌一首

［原文］　夏儲而　開有波祢受　久方乃　雨打零者　将移香

［訓読］　夏まけて咲きたるはねずひさかたの雨うち降らば移ろひなむか

一四八六

［題詞］　大伴家持、霍公鳥の晩（おそ）く喧くを恨みたる歌二首

［原文］　吾屋前之　花橘乎　霍公鳥　来不喧地尓　令落常香

［訓読］　我が宿の花橘を霍公鳥来鳴かず地に散らしてむとか

一四八七

［原文］　霍公鳥　不念有寸　木晩乃　如此成左右尓　奈何不来喧

［訓読］　霍公鳥思はずありき木の暗（くれ）のかくなるまでに何か来鳴かぬ

一四八八

［題詞］　大伴家持、霍公鳥を懽ぶ歌一首

［原文］　何處者　鳴毛思仁家武　霍公鳥　吾家乃里尓　今日耳曽鳴

［訓読］　いづくには鳴きもしにけむ霍公鳥我家（わぎへ）の里に今日のみぞ鳴く

一四八九

［題詞］　大伴家持、橘の花を惜しむ歌一首

［原文］　吾屋前之　花橘者　落過而　珠尓可貫　實尓成二家利

［訓読］　我が宿の花橘は散り過ぎて玉に貫くべく実になりにけり

一四九〇

［題詞］　大伴家持の霍公鳥の歌一首

［原文］　霍公鳥　雖待不来喧　菖蒲草　玉尓貫日乎　未遠美香

［訓を読］　霍公鳥待てど来鳴かず菖蒲草玉に貫く日をいまだ遠みか

一四九一

［題詞］　大伴家持、雨の日に霍公鳥の喧くを聞く歌一首

［原文］　宇乃花能　過者惜香　霍公鳥　雨間毛不置　従此間喧渡

［訓読］　卯の花の過ぎば惜しみか霍公鳥雨間も置かずこゆ鳴き渡る

一四九二

［題詞］　橘の歌一首［遊行女婦］

［原文］　君家乃　花橘者　成尓家利　花乃有時尓　相益物乎

［訓読］　君が家の花橘はなりにけり花のある時に逢はましものを

一四九三

［題詞］　大伴村上の橘の歌一首

［原文］　吾屋前乃　花橘乎　霍公鳥　来鳴令動而　本尓令散都

［訓読］　我が宿の花橘を霍公鳥来鳴き響めて本に散らしつ

一四九四

［題詞］　大伴家持の霍公鳥の歌二首

［原文］　夏山之　木末乃繁尓　霍公鳥　鳴響奈流　聲之遥佐

［訓読］　夏山の木末の茂に霍公鳥鳴き響むなる声の遥けさ

一四九五

［原文］　足引乃　許乃間立八十一　霍公鳥　如此聞始而　後将戀可聞

［訓読］　あしひきの木の間立ち潜く霍公鳥かく聞きそめて後恋ひむかも